

# 岩手県におけるダイコン栽培の現状と課題

岩手県農政部畑作振興課

野菜係長 戸来 昭 男

## 1 概 況

本県は、本州の北東部に位置し、ほぼ南北に長い円形をしており、東西 122 km、南北 189 km、面積は 15,227 km<sup>2</sup>と北海道に次ぐ面積を有している。

地勢は、東側に北上山地、西側に奥羽山脈が南北に走り、この2つの山系の間を北上川が流れ、平野を形成している。

気象は、県土が北緯 39° 以北に位置し、冷涼な中緯度気候帯と温暖な中緯度気候帯の境界にあること、標高差も加わって多彩な気象条件に恵まれている。また、沿岸地方では三陸沖で寒・暖流が接することから、県中部以北では主として寒流の影響を受け、気温は一般的に低く、梅雨期には「やませ」の影響から冷湿な気候になる特徴がある。

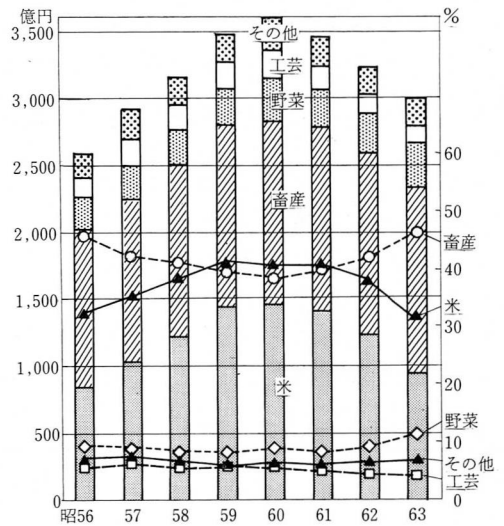


図1 農業粗生産額の推移

昭和 63 年度の農林統計によれば、農家戸数は 111,420 戸、農業粗生産額 3,006 億円（冷害により前年比△7.3%）。内訳は、米 31.4%、畜産 46.3%、野菜 11.2%、果実 3.4%、その他 7.7%となっている（図1、図2）。

農業就業人口は 180,080 人で、総人口の 12.7%となっている。

## 2 野菜生産出荷の推移

本県の野菜生産は、昭和 54 年までは栽培面積、生産量、出荷量ともに減少し続けたが、昭和 55 年の大冷害を契機に野菜を地域振興の重点品目として積極的に取り入れるように動きが変わってきた。

この間、県は、野菜生産振興を図るうえ

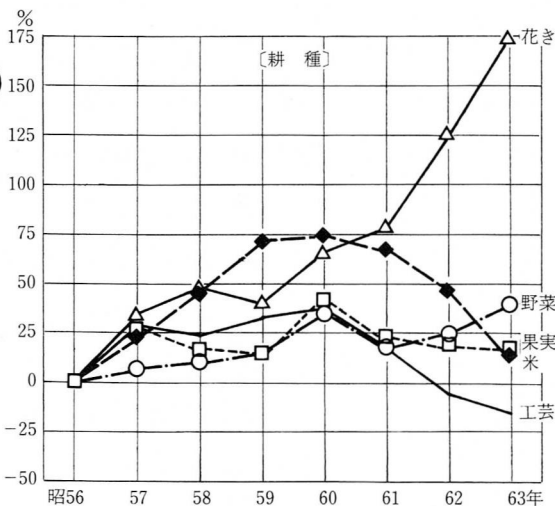


図2 農業粗生産額の伸び率 (昭和56年 = 0)

資料：生産農業所得統計

表1 本県のダイコンの生産出荷推移

年次	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成元年	平/50
栽培面積(ha)	1,800	1,700	1,790	2,130	118
生産量(t)	46,400	44,000	52,800	63,000	136
出荷量(t)	18,091	20,141	28,396	38,300	211
単収(kg/10a)	2,580	2,590	2,950	2,958	115

(資料：農林統計)

で鮮度保持体制整備の確立は不可欠との考えから、産地に真空式予冷施設などを積極的に導入推進した。

一方、東北自動車道の全面開通、輸送技術革新などとあいまって生産意欲も向上し、生産出荷量は年々向上し、今日に至っている。

その中で、ダイコンが順調な伸びを示し、現在では出荷量が最も多い品目に成長している。

主要因としては、野菜の中では作りやすい品目であること、収穫以外の作業が大型機械による体系が可能であること、真空予冷施設整備の充実と低温輸送体制が確立したこと、洗浄施設整備に

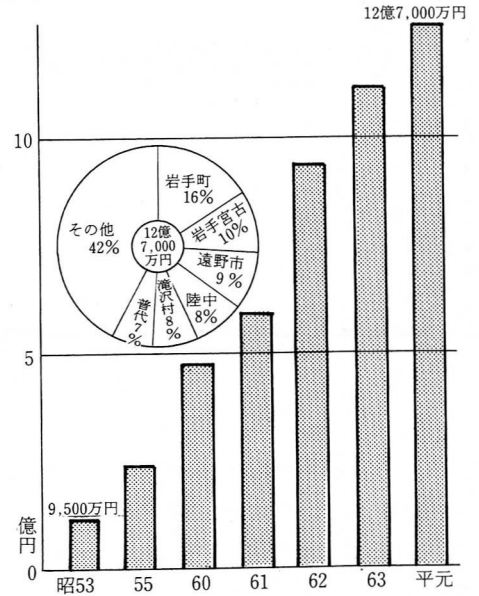


図3 ダイコンの出荷額

農協別出荷額割合(平成元年)

より生産規模の拡大が可能となったこと、県単事業による新規小規模畑が行われ、栽培面積が増加したことによると考えられる。

表2 野菜の品目別出荷数量順位 (単位：t・%)

順位	品目名	数量	構成比	左の累計	前年順位
1	ダイコン	35,807	23.5	23.5	1
2	キュウリ	23,971	15.8	39.3	2
3	レタス	20,006	13.1	52.4	3
4	キャベツ	10,323	6.8	59.2	6
5	スイートコーン	8,654	5.7	64.9	5
6	ピーマン	8,516	5.6	70.5	4
7	ハクサイ	7,956	5.2	75.7	7
8	トマト	7,091	4.7	80.4	8
9	ハウレンソウ	4,855	3.2	83.6	9
10	ネギ	2,778	1.8	85.4	12
	その他	22,218	14.6	100.0	
計		152,175	100.0	100.0	

資料：昭63 岩手県青果物流通動向年報

表3 野菜の品目別出荷額順位 (単位：千円・%)

順位	品目名	金額	構成比	左の累計	前年順位
1	キュウリ	4,414,106	16.0	16.0	1
2	レタス	3,081,935	11.2	27.2	3
3	ダイコン	3,028,481	11.0	38.2	2
4	ハウレンソウ	2,916,536	10.6	48.8	4
5	ピーマン	2,533,902	9.2	58.0	5
6	トマト	1,573,989	5.7	63.7	6
7	スイートコーン	1,065,689	3.9	67.6	9
8	キャベツ	866,252	3.1	70.7	11
9	エダマメ	775,749	2.8	73.5	7
10	ナガイモ	702,272	2.5	76.1	10
	その他	6,512,478	24.0	100.0	
計		27,551,389	100.0	100.0	

資料：表3に同じ。

また、関係者の長年の努力によって本県の栽培環境にあった品種などの開発導入も大きな効果をもたらしている。

### 3 作型と指標

本県での作型は図5のとおりであるが、青首系主体の消費動向に対応しながら、地帯、標高別に区分けしているが、播種期の決定については、作型、栽培方法、ほ場条件などによって同一地域内であっても多少異なった対処がされている。

最近の傾向は、春播きマルチ栽培による早出しが全県に広がりを見せ、長期継続出荷に弾みが出てきていることである。

また、やませ気象を逆手にとった産地形成も北部沿岸地帯に進み成果をあげている。

指導上の留意点としては、①長期(4—5年以上)の連作は行わない。②品質向上対策の徹底を図ることとし、特に出荷調整の吟味を図り、市場評価を高める。③秋には反転深耕の実施を強く指導している。④キスジノミハムシ、キタネグサレ線虫の徹底防除を図り、⑤萎黄病対策には細心の注意を払った指導の展開を行うことである。

### 4 今後の課題

#### 1) 安定生産対策

ダイコン生産の拡大とともに心配される事項は、

いわゆる連作障害の発生である。そのほとんどは土壌病害、害虫の多発などと考えられるが、土壌物理性、理化学性の低下の影響も大きい。

このため、基本的には輪作体系の確立を図り禾本科作物やギニアグラスやマリーゴールドなどの対抗植物導入を積極的に行い産地維持を図る技術指導と普及が必要である。

大規模農家の中には、近隣の農地の借用、開畑

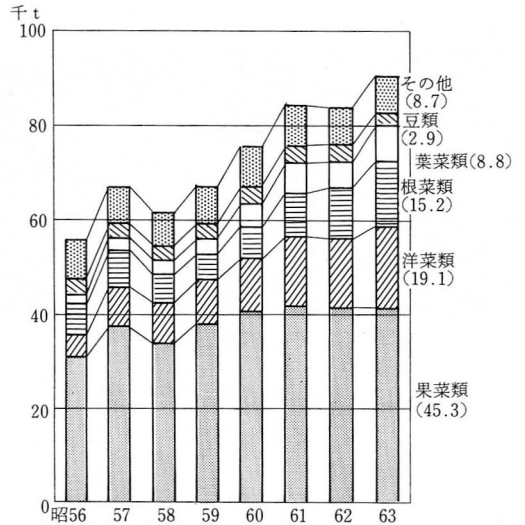


図4 野菜の系統扱い数量の推移  
注) ( )は昭和63年度の構成割合(%)  
(業務用資料)

品 種	作 型												地域分担	播種量	栽植距離	単収	労 力												
	1月		2		3		4		5		6							7		8		9		10		11		12	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下						上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
春 海 ( " ) いわて青首	①												中南部沿岸	9230N マルチ (110cm×30cm) 2条植6,060株 135cm×27cm 3条植8,229株 120cm×27cm 2条植6,172株	kg	人													
いわて青首 おはる いわて青首 耐病総太り	② ③ ④ ⑤ ⑥												県 南 (平坦地)				4,000	12											
耐病総太り	⑦												県 北 (高冷地・ 冷涼地)				0.7~ 1.0ℓ	"	"										
川越理想 (みくら) (吾 空)	⑧												全 県				"	5,000	"										
													加 工 用	"	"	14													

○：播種 ◐：マルチ ◑：トンネル —：生育期間 □：収穫期間  
図5 ダイコンの作型



写真1 ダイコン栽培風景(平坦部)

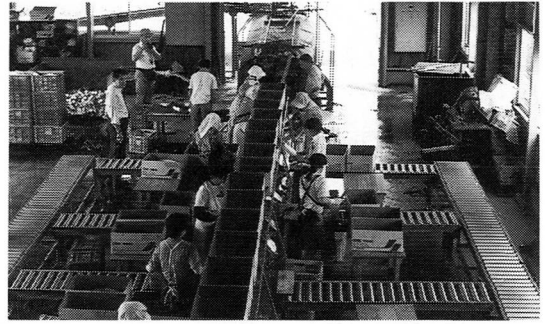


写真2 ダイコン洗浄風景(陸中農協 大根洗浄センター)

増反等による輪作体系確立指向もみられることから支援体制の強化が産地維持の重要なポイントになると考えている。

### 2) 商品性向上対策

表4は、東京都中央卸売市場における主産地の出荷動向であるが、本県産ダイコンの7-9月の平均単価が最も低いことから、商品性向上対策が緊急の課題である。

特に、8月出荷の品質低下が指摘されていることから、優良品種の導入が急がれている。

また、時期別、ほ場間などの品質隔差是正、洗浄、選別調整の均一性確保努力が、本県ダイコンが市場で高く評価されるための必須条件である。

### 3) 継続安定出荷

県南内陸部から高冷地につながるリレー産地育成と継続出荷体系の確立が急務であり、春播きマルチ栽培の導入によって可能性が拡大されてきている。

### 4) ほ場の衛生管理の徹底と土づくり



写真3 ダイコン栽培風景(高冷地)

表4 いわてダイコンの東京都中央卸売市場への出荷動向(年間)  
(7月-9月)

(単位:t,円/kg,%)

順位	数量	単価	占有率			前年対比		前々年度対比	
			平元	昭63	昭62	数量	単価	数量	単価
都中央計	39,150 t	96 <sup>円</sup> / <sub>kg</sub>	100%	100%	100%	96%	99%	107%	89%
北海道	11,253	109	28.7	28.6	22.4	97	97	137	80
岩手	8,297	81	21.2	21.1	19.7	96	95	115	88
青森	6,659	93	17.0	15.1	11.8	108	89	155	89
福島	3,022	118	7.7	7.1	9.4	104	134	88	105
栃木	2,350	105	6.0	6.3	9.5	91	107	68	95

ダイコンほ場の衛生管理は、極めて重要であり、ほ場内の残さ処理とあわせ、深耕と土壌改良、有機物の適正投入、ほ場排水等に万全を期しながら、ダイコンのための生育環境づくりに努めることが重要である。

### 5) 省力化対策

今後の労働力不足傾向に対応するためには、大規模栽培農家における作業の効率性、省力化が一段と求められている。

このため、農家自身の生産場面での技術等開発工夫の助長と、ダイコン洗浄センターへの選別調整委託方式の普及が解決方策の一つと考えている。

### 6) 安全野菜の生産と供給

当然なことであるが、安全野菜の生産と供給が産地の責務であり、今後においても省農薬、低農薬栽培など指導基準に基づいて指導を行い、消費者ニーズにこたえる努力が大切である。

以上のことを考慮しながら、産地の生産安定化対策を一層強化し、生産者の所得確保を図るとともに、消費地域には安定供給することにより社会的な責任も果たしていきたいと考えている。